

=研究概要=

哲学的アспектによって、「イメージ・時間・記憶」という映像の真髓を探る。また、「情報負荷社会」においての、今後の映像制作・映像教育の在り方を研究する。新たな映像理論の構築する。今年度も昨年度に引き続き、「ネット社会における映像文化の諸問題」を世界のあらゆるメディア研究に基づいて研究する。

「イメージ・時間・記憶」といった人間にとって肝要な問題を熟考することなく、経済原理だけで巨大ネットワークが構築され続ける現代、早急に「情報負荷社会」における映像表現とその影響について、教育機関も含め、研究が進められなければならない。昨年にも引き続き、2001年以降から現在までの映像表現と思想、特に「ネット社会における映像文化の諸問題」については、研究を進める。よって、最新の映像技術や映像表現に常に触れながら、我々現代社会における映像の在り方を探っていく。世界中で発進される映像メディアの技術・コンテンツの情報収集と分析・調査を行っていく。学生へのメディアリテラシー教育として、世界で起こる様々な現状（戦争・環境問題・貧困格差・温暖化）への理解を深めるための映像ソフト制作も行う。

=研究担当者(風間 正)=

芸術学博士。著書に『現代映像芸術論』(出版文化研究会)がある。